



## 2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年5月14日

上場会社名 福留ハム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理支援部長 (氏名) 深町 誠 TEL 082-278-6161

定時株主総会開催予定日 2020年6月24日 有価証券報告書提出予定日 2020年6月24日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期の連結業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	25,597	△0.5	△536	—	△490	—	△1,404	—
2019年3月期	25,737	△1.2	△149	—	△109	—	△319	—

(注) 包括利益 2020年3月期 △1,739百万円 (—%) 2019年3月期 △752百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	△420.93	—	△28.0	△2.9	△2.1
2019年3月期	△95.75	—	△5.1	△0.6	△0.6

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 ー百万円 2019年3月期 ー百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	15,462	4,122	26.7	1,235.15
2019年3月期	17,831	5,912	33.2	1,771.37

(参考) 自己資本 2020年3月期 4,121百万円 2019年3月期 5,911百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	260	△352	△254	2,392
2019年3月期	2	△1,447	1,066	2,738

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00	50	—	0.8
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	—	—
2021年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,300	△3.4	△130	—	△115	—	△130	—	△38.96
通期	25,000	△2.3	△200	—	△170	—	△200	—	△59.93

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期	3,400,000 株	2019年3月期	3,400,000 株
② 期末自己株式数	2020年3月期	62,932 株	2019年3月期	62,812 株
③ 期中平均株式数	2020年3月期	3,337,146 株	2019年3月期	3,337,232 株

(参考)個別業績の概要

2020年3月期の個別業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	25,597	△0.5	△535	—	△475	—	△1,092	—
2019年3月期	25,737	△1.2	△150	—	△97	—	△626	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期	△327.26	—
2019年3月期	△187.86	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	15,431	4,151	26.9	1,244.12
2019年3月期	17,439	5,627	32.3	1,686.37

(参考) 自己資本 2020年3月期 4,151百万円 2019年3月期 5,627百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	1
(1) 当期の経営成績の概況 .....	1
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	2
(4) 今後の見通し .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	3
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 連結貸借対照表 .....	4
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	6
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(1株当たり情報) .....	12
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度(2019年4月1日～2020年3月31日)におけるわが国経済は、企業収益の持続や雇用・所得環境の改善がみられるなど景気は緩やかな回復基調で推移したものの、消費税増税後の消費マインドの影響からくる景気の下振れや米中貿易摩擦の長期化をはじめとした不安定な海外情勢、さらには新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大幅な下押しにより、大変厳しい状況となりました。

当業界におきましては、消費者の低価格・節約志向が根強く残るなか、一部供給原料の値上がりに伴う製造コスト等の上昇や人手不足等による労働コスト・物流費の上昇など、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年を迎え経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続してまいりました。そして、5月には、高生産性で品質管理を徹底させた新たな拠点として、岡山県工場(岡山県浅口市)が本格的に稼働いたしました。

販売に関しましては、「花ソーセージ」「JAS特級あらびきポークウインナー」のCM放映に加え、4月より毎月100名様に商品詰め合わせセットが当たる「おかげ様で100周年キャンペーン」を実施し、販売強化を図ってまいりました。また、商標登録ブランド「ロマンティック街道」シリーズに加え、オリジナル商品「花ソーセージ」や昨年発売を開始いたしました次の100年に向けたブランド「昂ブランド」などの重点商品の販売・販路拡大に努めてまいりました。また、新商品といたしまして、あらびき感にこだわったノンスモークタイプのポークウインナー「あらびきKING」を発売し、製品ラインアップの拡充を図り、新規顧客拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、消費者の節約・低価格志向や競合他社との価格競争の激化などにより、255億97百万円(前年同期比0.5%減)となりました。利益につきましては、製造コスト、物流コスト等の上昇などにより、営業損失は5億36百万円(前年同期は営業損失1億49百万円)、経常損失は4億90百万円(前年同期は経常損失1億9百万円)となりました。当期純損益につきましては、減損損失4億26百万円や繰延税金資産の取り崩しにより、法人税等調整額を5億57百万円計上した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は14億4百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失3億19百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、消費者の節約志向が続くなか、新商品「あらびきKING」をはじめとして「JAS特級あらびきポークウインナー」や「肉厚ハンバーグ」シリーズ、さらには「ローストビーフ」、「ローストポーク」が堅調に推移しましたが、企業間競争の激化等により売上高は減少いたしました。利益面におきましては、原材料価格の上昇や製造コストの上昇により前年同期を下回りました。

その結果、売上高は112億58百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益(営業利益)は2億7百万円(前年同期比53.0%減)となりました

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉は、市場ニーズに合った販売が堅調に推移し、販売量は減少したものの売上高は増加いたしました。国産豚肉は、販売量、売上高とも増加いたしました。輸入牛肉は、豪州産、ニュージーランド産牛肉が堅調に推移し、販売量、売上高とも増加いたしました。輸入豚肉は、仕入価格の高騰、競争激化により販売量、売上高とも減少いたしました。利益面におきましては、輸入豚肉の販売量、売上高の減少や国産豚肉の販売単価下落の影響等により前年同期を下回りました。

その結果、売上高は143億38百万円(前年同期比0.9%減)、セグメント損失(営業損失)は1億80百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)75百万円)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産の部)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ23億68百万円減少の154億62百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ8億15百万円減少の63億69百万円となりました。主な要因は、現金及び預金3億46百万円と受取手形及び売掛金4億89百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ15億52百万円減少の90億93百万円となりました。主な要因は、土地6億21百万円、投資有価証券4億98百万円及び繰延税金資産3億1百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ5億78百万円減少の113億40百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ5億97百万円減少の76億5百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億31百万円、短期借入金54百万円及び未払金2億89百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ18百万円増加の37億34百万円となりました。主な要因は、繰延税金負債1億39百万円の増加と長期借入金53百万円、退職給付に係る負債54百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ17億89百万円減少の41億22百万円となりました。

主な要因は、利益剰余金14億54百万円、その他有価証券評価差額金3億33百万円の減少によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3億46百万円減少の23億92百万円(前連結会計年度比12.7%減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2億60百万円(前連結会計年度は2百万円の資金獲得)となりました。主な要因は、減価償却費5億74百万円と税金等調整前当期純損失8億20百万円、減損損失4億26百万円、固定資産売却益1億27百万円及び仕入債務の減少額2億24百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3億52百万円(前連結会計年度は14億47百万円の資金使用)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出6億51百万円及び投資有価証券の売却による収入3億21百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2億54百万円(前連結会計年度は10億66百万円の資金獲得)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入3億円と長期借入の返済による支出3億97百万円、リース債務の返済による支出96百万円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
自己資本比率 (%)	35.4	36.6	38.2	33.2	26.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	41.4	42.8	45.1	42.2	40.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	3.7	7.1	12.9	—	23.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	15.4	10.2	6.2	0.0	3.5

自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー/利払い

- (注) 1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。  
 2. 「株式時価総額」は、(期末株価終値) × (期末発行済株式数) により算出しております。  
 3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。  
 4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象にしております。  
 5. 利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

#### (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や国内外の不確実性により、景気が大きく減速することが懸念されております。当業界におきましても、消費マインドの低下に加え、原材料費などの製造コストの上昇や人手不足等による労働コスト、物流費の上昇など、厳しい状況で推移するものと予想されます。

このような状況のなか、当社グループは収益体質改善を最重要課題として、以下の三点に取り組んでまいります。

##### 1 営業力強化

創業100周年を機に立ち上げました「昂(すばる)」ブランドを当社の中心ブランドと位置づけ、「JAS特級あらびきポークウインナー」や「肉厚ハンバーグ」シリーズ、新商品「あらびきKING」などの主力商品の営業力強化に取り組んでまいります。

##### 2 競争力強化

「JAS特級あらびきポークウインナー」や「花ソーセージ」のCM放映エリア拡大や情報誌「ザ・プレミアムブック」の継続発刊等により、さらなる認知度の向上に努め、徹底した商品採算管理のもと、開発・製造・販売が一体となって競争力強化に取り組んでまいります。

##### 3 収益力改善

サプライチェーンの見直しや生産性向上を柱とした業務の効率化を進め、コスト削減による利益を創出できる体質に転換し、収益力改善に取り組んでまいります。

次期の業績につきましては、売上高250億円(前年同期比2.3%減)、営業損失2億円(前年同期は営業損失5億36百万円)、経常損失1億70百万円(前年同期は経常損失4億90百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失は2億円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失14億4百万円)を見込んでおります。

新型コロナウイルス感染症の収束時期や消費動向の見通しなど、先行き不透明な状況であり、業績予想につきましては、現時点において当社グループが把握している情報を基に軽微と見込んで算出しており、今後大きく変動する可能性があるため、業績動向を踏まえ、修正がある場合には速やかに開示いたします。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、今後のIFRS適用については、国内の動向等を踏まえ、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,858	2,512
受取手形及び売掛金	2,952	2,463
商品及び製品	986	1,050
仕掛品	49	48
原材料及び貯蔵品	250	267
前払費用	18	23
その他	83	5
貸倒引当金	△13	△1
流動資産合計	7,184	6,369
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,116	2,957
機械装置及び運搬具（純額）	845	975
土地	3,625	3,003
リース資産（純額）	191	127
建設仮勘定	50	-
その他（純額）	71	68
有形固定資産合計	7,901	7,133
無形固定資産		
電話加入権	21	21
その他	8	9
無形固定資産合計	29	30
投資その他の資産		
投資有価証券	2,197	1,699
出資金	42	42
繰延税金資産	301	-
敷金及び保証金	91	90
保険積立金	34	34
その他	199	203
貸倒引当金	△150	△140
投資その他の資産合計	2,715	1,929
固定資産合計	10,646	9,093
資産合計	17,831	15,462

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,307	2,075
短期借入金	4,677	4,623
リース債務	91	57
未払金	796	507
未払費用	84	85
未払法人税等	27	43
賞与引当金	171	165
その他	47	45
流動負債合計	8,203	7,605
固定負債		
長期借入金	1,425	1,372
リース債務	107	75
役員退職慰労引当金	333	353
退職給付に係る負債	1,809	1,754
繰延税金負債	-	139
その他	38	38
固定負債合計	3,715	3,734
負債合計	11,918	11,340
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,155	△298
自己株式	△80	△80
株主資本合計	5,270	3,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	707	373
退職給付に係る調整累計額	△65	△67
その他の包括利益累計額合計	641	305
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,912	4,122
負債純資産合計	17,831	15,462



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	25,737	25,597
売上原価	21,185	21,371
売上総利益	4,551	4,225
販売費及び一般管理費	4,701	4,762
営業損失(△)	△149	△536
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	39	40
不動産賃貸料	59	59
その他	37	44
営業外収益合計	136	143
営業外費用		
支払利息	66	69
不動産賃貸費用	27	24
その他	2	3
営業外費用合計	97	97
経常損失(△)	△109	△490
特別利益		
有形固定資産売却益	-	127
投資有価証券売却益	55	-
特別利益合計	55	127
特別損失		
減損損失	65	426
投資有価証券評価損	11	30
特別損失合計	76	457
税金等調整前当期純損失(△)	△131	△820
法人税、住民税及び事業税	27	26
法人税等調整額	160	557
法人税等合計	188	583
当期純損失(△)	△319	△1,404
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△319	△1,404

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純損失(△)	△319	△1,404
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△450	△333
退職給付に係る調整額	18	△1
その他の包括利益合計	△432	△335
包括利益	△752	△1,739
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△752	△1,739
非支配株主に係る包括利益	0	△0

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	2,691	1,503	1,525	△80	5,640	1,158	△84	1,073	0	6,714
当期変動額										
剰余金の配当			△50		△50					△50
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△319		△319					△319
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)						△450	18	△432	0	△432
当期変動額合計	-	-	△369	△0	△369	△450	18	△432	0	△802
当期末残高	2,691	1,503	1,155	△80	5,270	707	△65	641	0	5,912

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	2,691	1,503	1,155	△80	5,270	707	△65	641	0	5,912
当期変動額										
剰余金の配当			△50		△50					△50
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△1,404		△1,404					△1,404
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)						△333	△1	△335	△0	△335
当期変動額合計	-	-	△1,454	△0	△1,455	△333	△1	△335	△0	△1,790
当期末残高	2,691	1,503	△298	△80	3,815	373	△67	305	0	4,122

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△131	△820
減価償却費	475	574
減損損失	65	426
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	21	20
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	△22
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△141	△56
受取利息	△0	△0
受取配当金	△39	△40
支払利息	66	69
有形固定資産売却損益 (△は益)	-	△127
投資有価証券売却損益 (△は益)	△55	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	11	30
売上債権の増減額 (△は増加)	70	489
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△67	△80
仕入債務の増減額 (△は減少)	△184	△224
その他	4	64
小計	90	302
利息及び配当金の受取額	39	40
利息の支払額	△66	△73
法人税等の支払額	△61	△9
営業活動によるキャッシュ・フロー	2	260
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,504	△651
有形固定資産の売却による収入	-	321
投資有価証券の取得による支出	△11	△11
投資有価証券の売却による収入	66	-
無形固定資産の取得による支出	△1	△11
その他	3	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,447	△352
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	140	△10
長期借入れによる収入	1,400	300
長期借入金の返済による支出	△325	△397
リース債務の返済による支出	△98	△96
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△50	△50
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,066	△254
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△378	△346
現金及び現金同等物の期首残高	3,116	2,738
現金及び現金同等物の期末残高	2,738	2,392

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、商品及び提供するサービスについて包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。従って、事業部を基礎とした商品及び提供するサービス別セグメントから構成されており、「加工食品事業」及び「食肉事業」の2つを報告セグメントとしております。

「加工食品事業」は、主にハム・ソーセージ・加工食品の製造及び販売を主な事業としており、「食肉事業」は、主に食肉の生産及び販売を主な事業としております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	11,274	14,463	25,737
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	11,274	14,463	25,737
セグメント利益又は損失(△)	448	△75	372
セグメント資産	7,447	3,669	11,117
その他の項目			
減価償却費	344	77	421
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,691	59	1,751

当連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高	11,258	14,338	25,597
外部顧客への売上高			
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	11,258	14,338	25,597
セグメント利益又は損失(△)	207	△180	27
セグメント資産	6,858	3,082	9,940
その他の項目			
減価償却費	467	77	544
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	447	18	466

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	372	27
全社費用(注)	△522	△563
連結財務諸表の営業損失(△)	△149	△536

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	11,117	9,940
全社資産(注)	6,715	5,522
連結財務諸表の資産合計	17,832	15,462

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等であります。

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	421	544	39	19	461	564
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,751	466	1	14	1,752	481

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載は省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,771.37円	1,235.15円
1株当たり当期純損失(△)(円)	△95.75円	△420.93円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失(△)(百万円)	△319	△1,404
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(百万円)	△319	△1,404
普通株式の期中平均株式数(株)	3,337,232	3,337,146

(重要な後発事象)

該当事項はありません。